



南郷の風

平成27年度
第17号

明日で、2学期終了。ご協力に感謝申し上げます。

水泳から初雪まで、79日間の2学期が明日で終了します。保護者の皆様にたくさんのご協力をいただいたお陰で、子ども達に数々の体験、数々の表現の場を提供することができました。心より感謝申し上げます。



校長は、子ども達に「失敗を乗り越えられた」という体験を積ませたいと考えています。『自己ベスト』という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？ それは、す

らすらやれて何となく更新できてしまう記録ではなく、ちょっと困難があっても挑み、くじけてもなお一歩進んだ末に更新できた記録です。なわ跳び、器楽合奏、漢字90点突破などなど、一人で挑むものもチームで挑むものもあります。学校生活の様々な分野でその体験をしていくことが、成長という姿に結晶すると信じています。冬休みにはぜひ、がんばってできたことや、がんばり続けていることを、お子さんとの話題にしていいただければ幸いです。

新年も、南郷小の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせいただいた件をご紹介します。『南郷の風』は、南郷小WEBの学校だよりのページから、どの号もカラーでダウンロードできるようになっています。写真も鮮明です。ご利用ください。
URL は、 <http://www.minamiaizu.gr.fks.ed.jp/南郷小学校/>

道徳の研究授業、6年生

12/11(金)、6年生の研究授業を行いました。冒頭、小1～中3の棒グラフが黒板に提示され、「中1からぐんと増えてるこのグラフ、何を表しているんだろう？」そんな問いから授業は始まりました。

グラフの正体は、不登校の人数です。不登校もいじめも遠い町の出来事のように感じているであろう6年生に、進学を前に考えさせたいと組んだ授業です。

いじめを見かけたとき被害者も加害者も南郷小出身の同級生だったら、自分はどうするか。見かけた両者とも他の学校の生徒だったら、自分はどうするか。正義感と自分を守る気持ちとの間で心が揺れながら、考えた道徳の授業でした。

これからテレビや本でそのような題材に

接した時、自分ならどうするか、本当にそう行動できるか、6年生は今までと異なる視点で考えることでしょう。シンプルな答えはありません。ただ、知らん顔をしないようにしなくちゃ、と一人でも多く思い続けることが大切ではないでしょうか。



『南郷いろはかるた』

町教委生涯学習課の酒井浩哉様らが来校され、写真のようなカルタを学校に寄贈いただきました。詩を詠まれた森三喜子様と、絵を描かれた辺見輝夫様からは、制作の労や伝統文化への熱い思いをうかがいました。

実は、南郷地区文化祭の折に展示されてい

るのを拝見して、たいへん興味深く思い、質問をさせていただいたのが酒井様でした。

寄贈いただき、誠にありがとうございました。



伝統文化とひびき合う

南郷小の体験活動には、伝統文化とのふれあいから学ぶことを目的にしたものがあります。年末年始に、お子さんとの話題にしてみてもはいかがでしょうか。

3～6年生の「毛筆に親しもう」では、川井美枝子様を講師に招き、小条幅の毛筆に挑戦しました。筆で字を書く文化は世界でも珍しいものです。長い紙は均整をとるのが難しいけれど、それも体験して初めて実感します。毛筆文化を継承する貴重な機会です。→



←4年生は、総合的な学習で「美しい水を生かした産業」を学びます。『花泉酒造』の見学では、脇坂齊弘様に、伝統的な日本酒の製法を教えていただき、「生き物が米から酒を作る」説明に驚いていました。『臣の郷』では、井戸水を汲み、米を研ぎ、羽釜で炊いて、感謝していただく、という昔ながらの方法でご飯を作る体験をしました。心に響いて、お代わり続出の昼食になりました。

5年生は、総合的な学習で南郷の伝統的な年越し料理作りを学びました。邊見美代子様はじめ4名の講師をお招きし、7名の保護者の方にもお手伝いいただきました。

大人の料理教室かと思うほど、きちんと手順を踏んで、手分けして料理をしました。食べる時には、料理一つ一つに込められた願いや、器にも気を配ることを、お話しいただきました。



2年前に世界無形文化遺産となった『和食』の心を感じる、貴重な体験活動です。講師の皆様、保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

